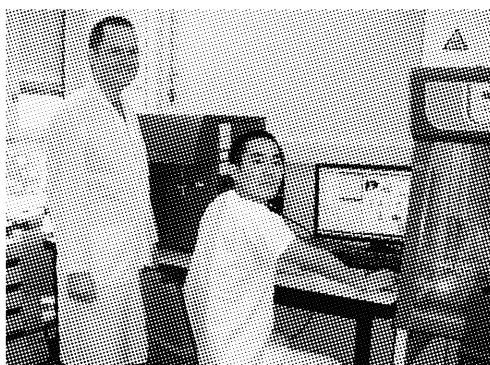


ポストドク就活に成果

早大3年半で離職者ゼロ

キャリア支援で就職に導いた博士学生・博士研究員（ポストドク）は約200人、離職者はゼロ

1。発足から約3年半となる早稲田大学博士キャリアセンターが実績を挙げています。本人の希望や



適性を見て会社説明会への出席を4社程度に絞ってすすめたり、海外を含む3カ月の就業体験（インターン）

海外でインターンシップ中の大学院生（早大博士キャリアセンター提供）

シップ）参加で指導教員を説得したり。個別支援は手間がかかるのがネックだが、スタッフのアクティブな動きが功を奏しているようだ。

同センターのキャリア相談では学生の研究条件などに対し、約70社の人材ニーズと照らし合わせて候補企業を絞り込む。研究のため時間をあまり割けない中、有効な就職活動につながる第三者の助言として、指導教員にも歓迎されるという。

文部科学省「ポストド

クター・インターンシップ推進事業」の活用などでインターンシップは80人（3分の1は外国）で実施。自身の研究の位置づけ把握、英語の提案書作成、外国企業のコアビジネスの取り組み方、各国人に通じるプレゼンテーションなどを実体験させる。「博士人材の研究力が評価され、ドイツのBASFやシーメンスなどは継続的に参加」（高橋浩客員教授）してくれる状況になっている。

人材需給バランスが悪い理学・バイオテクノロジー分野では、狭き門の製薬会社以外へ目を向けさせる。医薬事業を手がける化学会社や、医療

・診断機器メーカーがおすすめだ。

ただし、専門以外の物理や化学もしっかり身につける必要がある。博士1年など早くからキャリア意識を高めることが重要だ、と同センターは強調している。